

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産研究費

事業名 飛驒牛改良事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

畜産研究所 電話番号：0577-68-2226

E-mail：c24509@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 54,700千円（前年度予算額：52,569千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	52,569	0	0	0	52,569	0	0	0	0
要求額	54,700	0	0	0	54,700	0	0	0	0
決定額	54,700	0	0	0	54,700	0	0	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・「ぎふ農業・農村基本計画」の基本方針「ぎふ農畜水産物のブランド展開」における「輸出の拡大と大都市圏の需要喚起によるブランド力強化」及び「飛驒牛をはじめとする売れる畜産物を支える生産体制の強化」施策
- ・特長ある飛驒牛によりブランド力強化のためには優良種雄牛の造成が必須である。また、その生産体制の強化には人工授精用凍結精液の生産及び生産者への譲渡が必要である。

(2) 事業内容

- ・和牛生産事業 … 優良種雄牛の造成、
優良雌牛牛群の系統保存、優良子牛の生産・供給、
繁殖雌牛及び子牛の飼育管理技術に係る研究と実践
- ・人工授精事業 … 優良種雄牛の人工授精用凍結精液の生産及び生産者への譲渡

(3) 県負担、補助率の考え方

飛騨牛の改良事業は、県内では畜産研究所のみが行う事業であり、飛騨牛の全国的ブランドへの更なる発展に寄与するうえでも県事業として行うことは妥当性がある。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
消耗品費	12,970	繁殖及び人工授精関係の機材、消耗品等
修繕料	3,000	農場作業用車両・機材等の修繕
飼料費	27,226	繁殖牛及び種雄牛の飼料
役務費	9,701	和牛関係、人工授精に関する各種手数料等
工事請負費	0	
その他	1,803	精液証明書の印刷、原材料費等
合計	54,700	

決定額の考え方

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 「飛騨牛」の銘柄化推進の旗頭となる黒毛和種雄牛を造成すると共に、所内の繁殖雌牛群から生産した優良子牛の供給を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R5)	
					達成率	
① 優良子牛生産頭数		86頭	96頭	96頭	96頭	89%
② 優良種雄牛凍結精液配布本数		16,294本	19,000本	19,000本	19,000本	85%

○指標を設定することができない場合の理由

--

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・取組内容 <ul style="list-style-type: none"> 86頭の優良子牛を生産し、67頭を農家へ譲渡した。 直接検定牛10頭のうち2頭を畜産研究所の優良子牛から選抜した。 子牛育成試験を実施し、発育の改善効果や適正な飼料設計についての試験を実施した。 ・成果 <ul style="list-style-type: none"> 育成試験を実施している子牛の発育は良好であり、消化速度の異なる蛋白質や牧草の種類が体格の向上や日増体量の改善に寄与していることが示唆される。 なお、令和3年度は96頭の優良子牛の生産及び、凍結精液19,000本を供給する計画である。
-------	--

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会経済情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断）</p> <p>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 2	<p>・コロナ禍で需要が減少した畜産業事業者の支援には、飛騨牛の需要喚起、販路拡大及び輸出拡大に向けた取組みのため、特長ある飛騨牛を生産することができる安福系種雄牛の計画的な造成が望まれている。</p> <p>・飛騨牛の維持・発展のために県有種雄牛の凍結精液を安定的に生産者へ供給し、有効利用のための技術支援を行う必要がある。</p>
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか）</p> <p>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 1	<p>県内で利用される和牛凍結精液の85.2%(R01年次)が県有種雄牛の凍結精液であり、全国的にも非常に高い割合になっている。</p>
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか）</p> <p>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 1	<p>・繁殖雌牛及び子牛の飼養管理技術の向上により、生産率が向上している。</p> <p>・県有種雄牛については3つの系統を整備しており、基幹種雄牛12頭の位置付けを考慮しながら、農家のニーズに応えられる体制を整備する必要がある。</p>

(今後の課題)

<p>牛舎を始めとする各種の施設、農機具及び備品等が老朽化してきており、飼養管理に支障を来す場合も生じていることから、改修・更新に伴う費用が必要である。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>引き続き、農家のニーズに応え得る県有種雄牛凍結精液の供給体制を維持すると共に、「飛騨牛」の特徴である「脂肪質の良さ」「淡い肉色」「小ザシ」及び「モモ抜けの良さ」の改良が期待出来る種雄牛の計画的な生産を目指す。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	—